

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4190200354		
法人名	株式会社 エフォットケア		
事業所名	グループホーム風		
所在地	唐津市呼子町殿ノ浦92番地1		
自己評価作成日	令和2年11月19日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	令和2年12月4日	外部評価確定日	令和3年1月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご家族様とコミュニケーションを取りながら利用者様が毎日楽しく生活できるように心がけている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム風」は同事業所が営む小規模多機能居宅介護事業所隣に平成24年4月併設して開所している。開設時に代表者、職員と共に考えられた理念「目配り、気配り、緊張感」は現在も変更する事なく朝礼の際勤務者全員で唱和している。仕事に「慣れ」が生じる事なく「緊張感」を持って日々の業務に従事している。利用者との関係は「共に生活している」という意識を持ち隣接する小規模多機能居宅介護事業所と協力しながら穏やかに生活して頂けるよう支援している。今年にはコロナ感染症予防の為、面会、外出の機会が少なく施設内で過ごす事が多かった為一人一人の思いに沿う事が出来るよう声かけコミュニケーションを図っている。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者様優先を常に考え、毎朝、夜勤者、早出、日勤者が朝礼で理念を唱和している。	理念は開設当初、代表者と職員で考え現在も変更する事なく施設内2か所に掲示してある。「目配り、気配り、緊張感」は申し送りの際勤務者で唱和し確認している。日頃から「緊張感」を持って支援出来るよう意識づけを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	交流できるよう大きなイベントなどには、招待状を送ったり地域の回覧板に毎月発行の「風だより」をお願いしている。	地区の自治会に加入しており回覧板も届けられる。地区役員より公民館新築落成の案内を受け参加を予定していたが、感染症予防の為参加出来なかった。今年は施設行事も行っておらず地域との交流の機会がなかった。グループホームたより「風だより」を地域に回覧し日頃の様子を紹介している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナの影響で、地域の人々と接する事を制限しているので、不十分だと思う。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活かしている。民生委員さんの声により毎月の「風だより」を発行している。	運営推進会議は例年2か月に1回併設の小規模多機能居宅介護事業所と合同で開催している。(今年は感染症予防の為10月に初回開催)利用者家族、地区民生委員、消防団、市役所担当者等の参加により利用状況報告を主に委員からの意見や地域のお知らせ等情報共有を図っている。施設からの報告の中でヒヤリハット報告があったが内容は事故報告にあたる。	事故後の対応、今後の取り組みについては事故検討委員会の開催や事故後の評価等検討を行う事を勧める。、又ヒヤリハット報告書は支援中「ヒヤリ」とした内容をその都度報告するもので全職員が認識し事故を未然に防ぐ事が出来るよう、今後の取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	取り組んでいる。分からないことがあれば、他事業所、市町村担当者に聞きながら取り組んでいる。	運営推進会議に市の担当者が参加しており、顔なじみの関係が出来ている。分からない事があれば市の担当者に指示を仰ぎ普段から協力関係を築くよう努めている。感染症予防の為今年度介護相談員事業は実施されていない。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	各居室にカギはなく日中は玄関の施錠もしていない。	感染症予防の為外部研修に参加していない。年に2回、職員勉強会の際身体拘束について高齢者虐待と合わせて内容の確認や振り返りを行っている。言葉の拘束等アンケートを実施し何が拘束に当たるか再確認している。全ての職員が理解出来るよう「身体拘束の具体例11項目」「緊急やむを得ない場合3項目」の内容を施設内に掲示する予定。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の勉強会に常に数人参加し、年に数回、スタッフ全員での研修を行い、意識を高めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等に参加している。現在利用者なし。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明を行い納得された上で契約を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月の利用料をあえて届けてもらい、その折に家族様の意見を聞いたりして実践している。	毎月の利用料金を敢えて現金払いにしており持参された際、日頃の生活状況を伝え世間話を交えながら家族様の思いを知る事が出来るよう話しやすい雰囲気作りを心掛けている。今年には居室での面会も外出もままならない為家族が施設訪問された際玄関先で面会の実施、又家族と一緒に短時間ドライブに出掛ける等気分転換を図っている。日頃の気付き等は管理者・ケアマネージャーが細目に報告している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の全体会議、グループホームだけのミーティングを行っている。	代表者、管理者との個別面談は特に設けていないが代表者は日頃から職員の様子に気を付け時には個別面談を行う事がある。毎月の職員勉強会には休みの職員も自主的に参加し利用者の支援方法や業務内容の改善策等日頃の職員の思いや考えを聞く事が出来ている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状況、頑張りは日々確認している。職員の意欲を高める為にも働きやすい、働きがいのある環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内では月に1回勉強会を行っている。社外での研修にも参加する様心掛けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月に1回ある同業者の集まりに行き交流している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアマネージャーが本人と面談し、困ったことを聞き取り調査を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケアマネージャーが本人と面談し、困ったことを聞き取り調査を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の聞き取り調査によりプランの中に要望を組み込んでいる。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様を介護するという意識は薄く、共に生活していると常に思っている。食事の際の準備、洗濯物たたみなど一緒に行っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とは連携を密にしながら面会の回数を増やしながら本人を支えている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人には自由に出入り出来るようにしている。	感染症予防の為入居前から利用していた馴染みの美容室へ連れて行く事が出来なかった。外出や訪問も少なく地域との交流は困難だった。地元の移動スーパーが定期で訪問している為思い思いの品物を購入し喜んで頂いている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立することなく、洗濯物など元気な方がそうでない人を助けている。 挨拶や声掛けをされたり、利用者様同士がお話されることも多い。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	スタッフが、ご家族様に、地域の集まりや、町で会った時などは、声掛けし、お話ししたりしている。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者様の思い、希望などを本人にことあるごとに話を聞くようにしている。	職員は日頃のコミュニケーションの中から本人の思いを聞き取るよう心がけている。感染症予防の為帰宅願望が叶わず不穏になる入居者に対して職員が対応に苦慮する場面もあるが本人の思いを受け止め穏やかに過ごして頂けるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様との会話や家族から得た情報により把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の心身状態を把握し、その都度対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の要望を聞きながら、話し合いで毎月作成している。	介護支援専門員はケアプラン作成時職員より日頃の状態を聞き取り、本人、家族に次回ケアプランに対する意向を確認している。主治医へのケアプランの提出、照会依頼は行っていないが聞き取りを行い現状に即したケアプランを実施している。家族訪問時ケアプラン内容を説明、了承の上署名捺印を頂いている。	職員が全入居者のケアプラン内容を把握しケアプラン内容実行可否確認の為ケアプラン実行表を作成をすることを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気づき等を個人記録や申し送り帳に記入しその都度実践、介護の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況を把握し、支援やサービスに取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在参加されていない方がいる。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2日の往診や緊急時、主治医に連絡を仰いでいる。	入居時重要事項説明書・利用契約書の説明を十分行い了承の上8名の入居者は施設主治医に変更、月2回施設医師による定期往診を受けている。入居前の主治医を継続利用されている入居者や他科受診の際は原則家族対応だが、家族が対応出来ない際は施設より受診介助を行い受診内容はその都度家族へ報告している。毎週訪問歯科診療がある等適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	変化や気づきがある時は看護師に連絡し対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的な面会や医師や看護師に状態を聞き把握している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看護師の早めの判断、医師との連携を取っている。家族にも早めの連絡をとっている。	入居時看取りの説明を行っているが施設で看取りの経験は無い。利用者1名が併設の小規模多機能居宅介護事業所と連携して看取りが行われ本人・家族共に安心した最期を迎えられた。今後職員勉強会等を行い希望があれば支援出来るよう検討していく予定である。身体状態の変化により胃ろう、経鼻チューブ等経管栄養が必要になられた場合は受け入れ可能な施設を紹介している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全体会議での勉強会等で身につけるように訓練している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回程度消防の方から来ていただいて、災害時の避難訓練をして急な災害時に備えている。	例年2回消防団、施設職員、利用者参加にて訓練を行っている。消防団は運営推進会議への参加もありグループホームの実情を把握している。訓練の様子は「風たより」に掲載し地域に紹介している。職員は消火器、AEDの使用方法的訓練を受けている。	今後災害に備え3日間程度の水、食料品の備蓄が望ましい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の状態や人格を尊重しながらの支援を行っている。	入居時個人情報の取り扱いについて居室の名札、グループホーム便りへの写真掲載等家族へ承諾を得ている。、排泄、入浴時は特にプライバシーの保護に気を付け職員は声かけの際大きな声にならない様配慮している。	自力排泄の方が多く、本人が自由にトイレに行かれるよう長い暖簾を掛けてあったがトイレのドアは閉めるのが望ましい。職員が気付き声かけしながら見守り排泄の支援をする必要がある。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	状況に応じて対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の状態に合わせて出来るだけ支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時の着替え選びやイベント、外出時には好きな物を着てもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	コミュニケーションの中で嗜好品を聞き出来る限り行っている。	毎日の食事メニューは決まっておらず、調理担当者が入居者に希望を聞いたり、冷蔵庫の食材から考え調理している。食事の下準備や食器拭き等利用者と共に行っていたが今年度は実行出来ていない。嚥下状態にあわせ再炊き、刻み、トロミ食等を提供し全員自力摂取されている。職員は側に付き添い事故なく美味しく食事が出来るよう見守り支援している。感染症予防の為今の時期は難しいと思われるが時には利用者と一緒におやつを作り提供すると喜ばれると思われる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	看護師の指示により行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後行っている。週に1回の歯科衛生士による指導も行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	時間をみて声かけ介助を行っている。トイレでの排泄を促している。	昼夜を通して紙おむつ使用者1名、8名の利用者は紙パンツ+尿取りパット使用。自力排泄の入居者は本人任せではなく排泄間隔の把握と排泄介助によりパット使用量減少又は紙パンツから布パンツへの変更の可能性があり家族の経費負担軽減にも繋がっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動や水分を摂ってもらったり、それでも出ない場合は医師や看護師の指示により服薬している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週2回が基本だが、希望があれば支援している。	週4日浴室を準備、入浴予定表は作成せずその時々状況により声かけしながら週2回入浴を支援している。声かけに嫌がられた際は再度声かけしたり次回入浴して頂くなど利用者の意向に沿って支援している。浴槽で温まられている際声かけしながらコミュニケーションを図り、浴槽に入るのが困難な利用者にはシャワー浴を提供しながら楽しく温かく入浴出来るよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況に応じて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師により管理されている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や好みに合わせた対応をして、楽しく過ごしてもらえるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に応じた花見やドライブなどを行っている。時には買い物に出かける。	今年新型コロナウイルス感染症の為毎年行っていた花見ドライブ等外出が実施出来なかった。天気の良い日に施設外でおやつを食べる等気分転換を図っている。週1回移動スパーが来る為自分で好きなお菓子を選んで購入し喜ばれている。開設時施設周りにいた飼い主不明の子猫2匹をグループホームで飼い、時には猫好きの利用者と触れ合う時間を設けている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	1人ひとりの希望や力に応じて、買物の際は、現金を持って支払って頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の場は明るく過ごしやすくなっている。	日中利用者が過ごすホールは居室、対面キッチン等に囲まれ天井が高く明るい。食事の準備をする職員と交流しながら調理の音やにおいが漂いソファーやテーブルの椅子に座り思い思いの場所でくつろぎゆったりと過ごしている。ホールには加湿器が設置してあり夜間は窓を開け換気する等感染症対策に取り組んでいる。	更に玄関ドアノブ、手すり、トイレ等誰もが触れる場所の消毒を適宜施行した方がよいと思われる。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	可能な限り行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用されている物を持って来てもらっている。	施設が準備しているベッド以外は寝具、衣装ケース等を持参している。居室は白を基調とし清潔感があるが写真等の飾りが少なく殺風景に感じる。季節毎の衣替えは例年利用者と家族が一緒に行っている。今年は家族が入室出来ない為職員が衣替えを行い家族に連絡している。職員が居室清掃を行い嫌な臭気もなく清潔に保たれている。利用者不在時は居室の窓を開け換気を行っている。ドアに名札が掲示してあり自室と認識出来ている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	足の運動に廊下を歩かれる方があり、回って行かれるように、スペースをとっている。 居室がわからなくなる方もあり、居室の名札は、利用者様の目線の高さに合わせている。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目))(事業所記入)
※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない